

キリスト教主義の 会津北嶺高校・入学式

4月10日、会津北嶺高校の入学式が、参加者全員フェイスシールドを付け、会場の体育館や教室を噴霧消毒し、午後1時より行われた。式はキリスト教主義の入学式。十字架の燭台に4本の蝋燭を点し国家斉唱・校歌・賛美歌、祝辞は保護者会長嘉藤和幸氏・後援会長久保田栄一氏・歓迎の言葉は加藤成陽君・誓いの

言葉は初谷海天さん。最後に、牧師の祝祷で締めくくった。入学者は138名、定員120名をオーバーしている様に見えるが18名は県外からの野球部希望者との事。

式辞の中で、「1923年に石山休三先生が『博愛・自由・平等』の建学の精神のもと、若松裁縫女学校として創立され、98年を迎えました。1947年からはキリスト教教育を徳育教育の柱として、建学の精神のとおり、『生きること、愛すること、学ぶこと、そして貢献すること』。人間は平等であるから、先生は生徒さんと呼ばひ捨てしません。授業時数も内容も県立の進学校に引けを取ることはありません。皆さんは会津北嶺高等学校を

選んで入学したのではなく、『神様が選んで一人一人をここに送ってくださった』と私は信じています」と石山校長。

また、「会津北嶺では、野球部のために全天候型練習場(ビニールハウス)が体育館脇に5月に完成します。サイズは全会津一の大きさを、一般的なサイズより5m長く、間口は1・8m広いと聞いています」と石山校長。

